

近代中国語敬辞体系の記述

彭 国 躍

1. はじめに

従来の中国語の敬語をいかに体系化、組織化するかは、これまでの中国語研究における一つの未解決の問題として残されてきた。太田氏(1972)はかつて中国語における敬語“問題は従来、取り上げられることが稀で、伝統的な敬語の全面的な考察さえも、試みられたことはなかった”と指摘された。この指摘はその後の二十年間の研究状況にも当てはまるものである。本研究は近代中国語における敬語表現“敬辞”についての体系的な記述を試みるものである。

近代中国語の敬辞体系は中国文化における世界観、価値観の構造と深くかかわっている。中国文化において、伝統的に世界は一つの統一した価値世界として捉えられ、“陰／陽”という最も上位の価値構造に基づいて、世の中の様々な関係構造が成り立ち、様々な事物が価値付けられ、関連付けられる。

“此／彼、内／外、自／他、从／主、下／上、小／大、暗／明、冷／熱、浊／清、卑／尊、賤／貴、劣／優、愚／賢、貧／富、弱／強、若／老…”

中国文化においてこのような対になるすべての関係軸は、一方が消極的な価値“陰”で、もう一方が積極的な価値“陽”に属するものとして理解され、組織化される。そしてこのように構成された2項対立の関係ネットワークによって、森羅万象の世界現象を統合的に解釈するのである。これはいわゆる“陰陽世界観”である。このような世界観のもとで人々は生活経験に基づき、関係枠組みにおける2項概念のどちらかに関連付けられる事物概念を、陰か陽のどちらかの価値を有するものとして価値付けし、カテゴリー化する。例えば、下／上関係に基づき地は陰、天は陽であり、冷／熱関係に基づき冬は陰、夏は陽であり、暗／明関係に基づき夜は陰、昼は陽であり、従／主関係に基づき臣下、奴僕は陰、君主、主人は陽であり、若／老関係に基づき子供など年少者は陰、親など年長者は陽であり、弱／強関係に基づき犬、豚などの家畜小動物は陰で、龍、麒麟、鳳凰など神通力を持つと思われる動物は陽である。

このように、“陰陽”という最高次元の価値関係概念によって、世界の様々な性状概念や事物概念が組織化され、カテゴリー化される。このカテゴリー化の過程を通して中国文化における心的世界像のモデルが構成される。(中国文化の心的世界像について彭1995aを参照)

この心的世界像の中で、陰または陽のカテゴリーに属する関係概念や事物概念同士の間、等価と類似関係が成立する。この類似性に基づき、陰か陽の同一カテゴリーの概念同士にメタファー(隠喩)の基盤ができあがる。(敬辞メタファーの類似性問題について彭1995bを参照)

陰陽の関係ネットワークに基づき、自は陰で、他は陽である。敬辞における自他の人間

関係構造もこの陰陽世界モデルに統合される。自己という概念と陰に属するほかの概念との間に、そして、他者という概念と陽に属するほかの概念との間に等価と類似関係が成立する。伝統的な中国社会において礼儀正しく振る舞うことは、このような世界の陰陽秩序を守って行動し、表現することを意味する。会話、公文章、手紙などのテキスト条件と、社会的上下、親疏関係、公的と私的場面などのコンテクスト条件が整えば、それぞれ自己のことに關して陰の概念を通して、他者のことに關して陽の概念を通して表現することは礼儀にかなうことである。したがって、伝統的な中国語の敬辞とは、このような価値的世界の秩序観に基づき、現実世界における客観的な真実情報を越えて、自己のことに關して“劣～、拙～、賤～、下～、小～、愚～、貧～、寒～、犬～、蝸～、…”などの陰の概念を通して、他者のことに關して、“令～、雅～、貴～、尊～、高～、大～、賢～、清～、明～、龍～、鳳～、玉～、金～、光～…”などの陽の概念を通してメタファー的に表現することである。

本研究は、近代中国語（元、明、清時代）を対象にこのような概念メタファー型の敬辞体系について記述することを目的とする。

2. 敬辞体系の概観

敬辞はその表現の文字通りの概念的意味に基づいて大きく4つの部門に分けることができる。(1) 性状に関する概念、(2) 事物に関する概念、(3) 人間関係に関する概念、(4) 心身作用に関する概念。

(1) 性状概念とは、2項対立の構造を持つある性質や状態に関する概念である。敬辞として利用された性状概念の中には、優劣、貴さ、高さ、大きさ、厚さ、老若、賢さ、賑やかさ、清らかさ、豊かさ、明るさ、芳ばしさ、量、暑さなどのそれぞれの尺度における対立概念が含まれる。これらの尺度の両極の概念には、それぞれ陰か陽の価値が認められる。その陰陽の価値的含意が、これらの概念を表すことばを敬辞たらしめる主要因である。この種の敬辞表現は、量的にも、意味内容の上でも敬辞の中のプロトタイプ（典型）として見なすことができる。

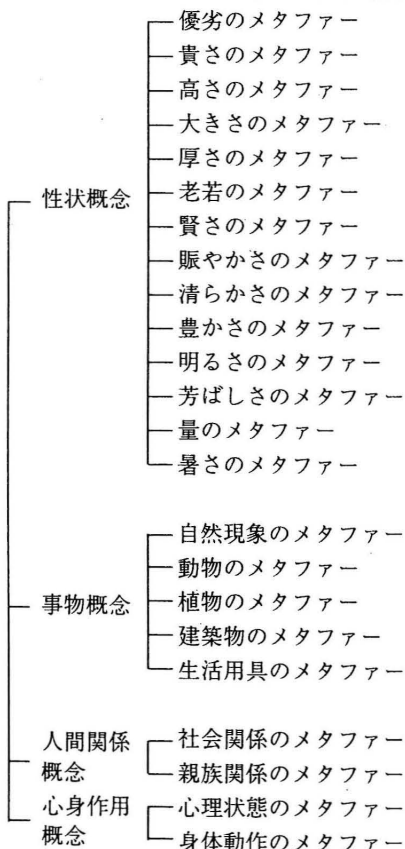
(2) 敬辞に利用された事物概念には、数多くの現象概念や物体概念が含まれるが、ここではそれを更に①自然現象、②動物、③植物、④建築物、⑤生活用品などの五つの部類に分けて記述する。事物概念が敬辞として利用されたのは、単なる特定の事物そのものだけでなく、個々の事物が具有している性質が何らかの形で性状概念に関係付けられ、そこに陰か陽の価値評価がなされたためである。敬辞の性状概念と事物概念との間に深いつながりが存在する。例えば、他者の恩情を“天恩”と言うとき、単なる自然現象としての空の概念が敬辞になったのではなく、“天”という概念に含意された高さと大きさ、そして中国で神として崇められた天のパワーの強さなどの属性が“天”という表現に敬語としての動機づけを与えたのである。したがって、性状概念は、この種の敬辞成立の媒介概念としての役割を果たしたと言える。

(3) 人間関係の概念には、①社会関係と②親族関係の二つの部類に分けられる。社会関係とは、社会の中での役割によって生じた人間間の関係である。それに職場における上司と部下の関係、宗教や学校における師弟関係などが含まれる。親族関係は血縁や婚姻によって結ばれた親族同士の関係である。このような概念を表す表現が事実そのような関係

にない人に対して使われる場合に一種の待遇的效果が生まれる。この人間関係の概念も性状概念から完全に独立したものではなく、特に性状概念の内の老若、大きさや強さなどの概念における陰陽の価値含意に深く関係している。

(4) 心身作用の概念には、感情、気持ちを表す心理状態の概念と、ある社会的意味が伴う体の動きを表す身体動作の概念が含まれる。この種の概念も実際敬辞として利用された他の概念と密接にかかわっている。心理状態概念は社会的上位者と下位者との間の尊卑関係によって生じる感情が利用されている。例えば、社会的上位者の話を聞くことを、“恭听（恭しい気持ちで聞く＝お聞きする）”と表現する。この場合、相手の話を聞くことを恭しい謹み深いという心情概念を通して表現している。そして、身体的動作概念を表す敬辞は、社会的上位者と下位者との間に行われる礼儀的な意味を持つ身体動作を通して表現するものである。例えば、他者が書いたものを自分が読むことを礼儀正しく表現しようとする場合、“拜（拝む）”という礼儀的な身体動作を通して（実際その動作をしていなくても）メタファー的に“拜读（拝んで読む＝拝読する）”と表現する。

以上の分類に基づいて、近代中国語敬辞の体系像を次のように示すことができる。



以下、それぞれの項目において、尊辞に利用された他者に関するメタファーと謙辞に利用された自己に関するメタファーをペアで記述する。中国語の敬辞には日本語の“ます”、“です”のような話題に登らない聞き手への配慮を示す表現は存在しない。ここでの“他者”という用語は自分（あるいは自分側）以外の話題人物（聞き手と第3者を含む）を意味する。ほとんどの場合一つの項目の中で尊辞と謙辞の両方が利用されるが、尊辞か謙辞の一方しか現われない場合もある。片方だけのメタファーが利用される現象にはいろいろな要因がからんでいるようである。何らかの理由により一方のメタファーが欠如することもあれば、筆者の調査範囲内に現れなかった可能性も考えられるので、ここでは、尊辞と謙辞表現が揃った場合には、メタファー、語例、例文の順で記述し、尊辞か謙辞の一方しか利用されていない場合には、例証欠如の形でメタファーだけ示すことにする。

中国語の敬辞は、日本語の敬語のように文法化、パターン化されていないので、敬辞Xが修飾できる成分は、必ずしも敬辞Yの修飾できる成分と一致するとは限らない。したがって、語例に関しては、敬辞概念の部分だけでなく、敬辞によって修飾され、敬辞と共に起する他の成分もできる限り収める。例文に関しては、できるだけ一つの敬辞に最少一例挙げる。

敬辞はある種のメタファーであり、日常的、具体的な概念を通して（人間関係という）抽象的な概念を理解し表現するという点では一般的なメタファーと何ら変わらない。そして敬辞はすべてある語の本義を利用する性質を持っているため、具体的なコンテキストがなければ、同じ表現が本義としても敬辞としても理解され得る。例えば、“良策”、“愚見”はその本来の意味“よい解決法”、“愚かな意見”としても使われるし、敬辞という対人関係の修辞法として（“あなたの”お考え”、“（わたくしの）意見”）として使われることもある。ここで取り上げる語例や例文はすべて敬辞として機能したコンテキストの中から選ばれたものである。

3. 敬辞の例証

3.1. 性状概念のメタファー

3.1.1. 優劣のメタファー

A:他者は優れている。

語例：

令<りっぱな>：令祖、令伯、令夫人、令兄、令妹、令弟、令子、令媛、令媳、令婿、令师、令徒…

良<よい>：良策、良馬…

妙<美妙な>：妙齡、妙策…

雅<雅やかな>：雅号、雅情、雅教、雅贖、雅意、雅愛…

华<華やかな>：华居、华府、华札、华函、华翰、华诞…

例文：

(1) 先生住在令亲家、早晚常进来走走。『儒』第33回

(2) 愿闻良策。『三』第75回

(3) 将军今年妙齡几何。『三』第59回

(4) 动问神仙、高名雅号。『金』第29回

(5) 这华居、其实住不得、将来当事拜往。『儒』第3回

B:自己は劣っている。

語例：

劣く劣る>：劣叔、劣兄、劣弟、劣刊…

敝くみすばらしい>：敝处、敝地、敝舍、敝居、敝庐、敝县、敝眷、敝亲、敝友、敝人、敝号…

拙く拙い>：拙妇、拙夫、拙兄、拙女、拙见、拙作…

俗く俗な>：俗冗、俗务、俗吏…

例文：

(1) 劣叔老矣、既无嗣续、况且倦游、前程有限。『玉』第14回

(2) 他是高要县人、同敝处周老先生是亲戚。『儒』第7回

(3) 拙夫今日衙门中理公事去了、还未来家哩。『金』第43回

(4) 小弟连日不是不来、缘舍下俗冗缠扰、绝无情兴。『玉』第13回

ここで優劣メタファーの例として善し悪しに関する価値評価を一次的に意味する表現として“令、良、妙、雅、华／劣、敝、拙、俗”を上げているが、陰陽の概念構造そのものが一つの価値構造の世界なので、以下の性状概念（例えば大きさなど）にもこのような価値判断が二次的の含意として含まれている。

3.1.2. 貴さのメタファー

“賤／貴、卑／尊”の両尺度の概念間に語源的に微妙なニュアンスの差はあるが、ここでは基本的に“とうとさ”を表すものとして一つの尺度にまとめる。

A:他者はとうとい。

語例：

貴くとうとい>：贵邦、贵国、贵乡、贵庚、贵姓、贵手、贵足、贵体、贵恙、贵宅、贵寓、贵诞、贵降、贵干、贵戚、贵眷、贵价…

尊くとうとい>：尊父、尊慈、尊庚、尊姓、尊体、尊颜、尊容、尊恙、尊裁、尊府、尊居、尊眷、尊嫂、尊舅、尊婢、尊命、尊意、尊闻…

例文：

(1) 请先观贵造、然后观相尊容。『金』第30回

(2) 先生贵处哪里。『儒』第7回

(3) 只恐在尊园打扰不便。『玉』第8回

B:自己はいやしい。

語例：

賤くいやしい>：賤妾、賤内、賤室、賤庚、賤姓、賤名、賤体、賤驱、賤疾、賤恙、賤命、賤处、賤降、賤日…

卑くいやしい>：卑人、卑将、卑吏、卑职、卑意…

鄙くいやしい>：鄙人、鄙心、鄙忱、鄙悃、鄙诚、鄙意、鄙见、鄙说…

例文：

(1) 求小姐救奴賤命罢。『蜃』第7回

(2) 只是賤内已经去世、须要回去与小女商量。『蜃』第16回

(3) 卑职一家八口、都靠着大人养活。『屢』第16回

(4) 些须薄物、聊展鄙忱。『玉』第11回

3.1.3. 高さのメタファー

A:他者は高い。

語例：

高く高い>：高名、高姓、高徒、高弟、高足、高邻、高龄、高年、高寿、高卧、高居、高轩、高斋、高住、高见、高论、高识、高情、高义、高忱、高谊、高怀…

上く上の、上で>：(前置)上人、上客、上宾、上国、上宫、上姓、上裁、上闻、(後置)主上、圣上、皇上…

下く下向きに、下向きの>：下爱、下顾、下降、下教…

垂く垂れて>：垂照、垂虑、垂爱、垂顾、垂览、垂谅、垂听、垂训、垂救…

俯く俯いて>：俯采、俯赐、俯临、俯纳、俯念、俯恕、俯准…

例文：

(1) 今日既蒙高情、我怎敢不领。『紅』第24回

(2) 此位上姓。『儒』第31回

(3) 今主上初登宝位。『三』第85回

(4) 长官下顾、学生奉价过来。『金』第38回

(5) 老先生既再三垂问、晚生只得说了。『玉』第12回

(6) 这是俺员外一点孝心、求老爹俯纳。『金』第55回

B:自己は低い。

語例：

下く下の、下に>：(前置)下官、下士、下学、下愚、下怀、(後置)臣下、在下…

上く上向きの、上向きに>：(前置)上告、上达、上表、上报、上覆、上谒、(後置)奉上、献上…

仰く仰ぐ、仰いで>：久仰、素仰、谒仰、敬仰、仰观、仰测、仰报、仰慕…

瞻く仰ぐ、仰いで>：失瞻、幸瞻、瞻拜、瞻谒…

登く登る>：登门、登堂、登龙…

攀く登る>：高攀、相攀…

顶戴くかぶる>：…

例文：

(1) 下愚当时也曾与他往来过数次。『紅』第120回

(2) 在下…仰望老先生公也不公。『好』第5回

(3) 上覆县主老爷。『儒』第1回

(4) 仰望先生仁慈忠义。『三』第37回

(5) 原来就是宋兄、小弟失瞻了。『天』第24回

(6) 我们合家大小、登门去磕头。『紅』第63回

(7) 小弟偶见令弟才貌与舍甥女可作佳偶、所以苦苦相攀。『玉』第11回

(8) 门生终身皆顶戴老师高厚栽培。『儒』第22回

高さの尺度を通して表現された敬辞表現は、他の敬辞メタファーと同じように、本質的

に特定の言語形式を敬辞として規定するのではなく、高さに関する概念そのものを利用するものである。高さという物理的空間概念が持っている明確な構造性が言語表現に現れ、そして敬辞として利用される。そのため敬辞に“高、上、下”など高さの状態を表す表現や、“垂、俯、瞻、仰、降、登”など垂直空間の落差に基づく向きや動きを表す表現が多く含まれる。高さのメタファーは、敬辞の概念的構造性をよく表している。そして、尊辞と謙辞には“上～”という同一の表現形態が使われているが、尊辞では“上の、上で”，謙辞では“上向きの、上向きに”とそれぞれ異なる意味を表している。この事例は中国語敬辞の非文法的、非形態的性質を端的に物語っている。

3.1.4. 大きさのメタファー

A:他者は大きい。

語例：

大く大きい>:大官、大人、大号、大名、大作、大筆、大略、大教、大师、大恩…

例文：

- (1) 我与大人递一钟儿。『金』第71回
- (2) 一向久仰尊府大名。『金』第58回
- (3) 这是萧先生大笔。『儒』第29回

B:自己は小さい。

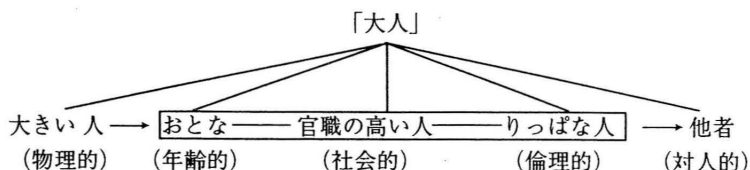
語例：

小く小さい>:小臣、小将、小侄、小辈、小弟、小人、小子、小儿、小女、小婿、小亭、小舍、小室、小寓、小斋、小店、小物、小酌、小疾、小策、…

例文：

- (1) 兄来得正妙、请人小斋一谈。『红』第1回
- (2) 小人王冕、这里便是寒舍。『儒』第1回
- (3) 此乃小物、但请收下。『天』第18回

この大きさのメタファーは、物理的概念が最初の起点領域である。物理的大きさの概念に基づくメタファーは敬辞の外にもいろいろある。例えば“年上は大、年下は小”，“身分上位者は大、下位者は小”，“よいことは大、悪いことは小”など。そのため敬辞として利用された“大／小”の概念にもこのような多義的な“大きさ”の意味が複雑に絡んでくる。例えば，“大人”が敬辞として成立する場合，“大”の起点領域は物理的大きさで、目的領域は他者を丁寧に表現するという自他の人間関係であるが、両者のメタファー的写像過程において，“大”の年齢、身分、よさなどにおけるメタファー的表現が持っている派生的な意味も関与しているようである。



このメタファー群の複雑な相互干渉、相互作用は他の敬辞メタファーにも見られる現象である。ここではこの問題に深く立ち入ることはできないが、この現象に関する更なる考察が必要であらう。

3.1.5. 厚さのメタファー

A:他者は厚い。

語例:

厚く厚い>: 厚賜、厚贐、厚腆、厚賞、厚儀、厚礼、厚情、厚爱、厚意、厚款、厚恩…

例文:

(1) 多谢你师父厚礼。『金』第39回

(2) 昨日深叨厚款、今日正要来拜谢。『玉』第8回

B:自己は薄い。

語例:

薄く薄い>: 薄賤、薄酒、薄酌、薄饌、薄礼、薄儀、薄情、薄意、薄德、薄面…

例文:

(1) 些须薄物、聊展鄙忱。『玉』第11回

(2) 看我宋江的薄面、放她回去。『金』第84回

厚さメタファーの敬辞には、主に自他の間の贈答品や感情の概念表現と共起するという特徴が見られる。この現象は、敬辞とその被修飾成分との間に共起領域に関する役割分担に一定の意味論的傾向性が存在していることを示唆している。この現象も他の敬辞メタファーに共通する問題である。(敬辞と被修飾成分との共起関係について詳しくは彭1995d, 1996aを参照されたい。)

3.1.6. 老若のメタファー

A:他者は年取っている。

語例:

老く老いる>: 老公公、老太太、老伯、老爹、老父母、老丈人、老兄、老哥、老弟、老太監、老师、老先生、老友…

例文:

(1) 老太監勿得太谦。『金』第70回

(2) 老先生的殊卷是晚生熟读过的。『儒』第2回

B:自己は若い。

語例:

晩く後輩の>: 晩生…

小く若い>: 小生、小徒、小子…

例文:

(1) 晩生小子、怎敢在老先生面前放肆。『玉』第8回

(2) 小生久闻老和尚清誉。『西』第1回

このメタファーに、中国文化における年齢に対する価値観が反映されている。“年取ることはいいことである”という価値観がこのメタファーを支えていると言える。この価値

観は現代の日本社会と一部の中国の都会において広がりつつある価値観、つまり若いことがよいことで、相手のことを若く見えるように表現するのは礼儀的であるという価値観とは正反対である。この現象から、敬語行動は他者に陽（積極的、プラス）の価値を、自己に陰（消極的、マイナス）の価値を付与するという意味で普遍性を持っているが、何をプラス価値、マイナス価値と見なすかについては文化や時代によって相対的であるということが分かる。“大きさ”など他の尺度に対する価値観についても同じことが言える。例えばハイテク時代に入った現代社会では価値観の多様化が進み、いろいろな面において“小さいことはよいことである”という価値観が広がりつつある。

3.1.7. 賢さのメタファー

A：他者は賢い。

語例：

賢く賢い>：贤东、贤妻、贤内助、贤阁、贤昆仲、贤兄、贤姊、贤弟、贤妹、贤郎、贤公子、贤令爱、贤令媛、贤侄、贤侄女、贤婿、贤亲、贤公、贤士、贤尹、贤友、贤契、贤名…

例文：

- (1) 未审贤侄主见如何。『蜃』第4回
- (2) 贤亲、你两个且宽心着。『水』第49回
- (3) 贤契不要把水小姐看作等闲。『好』第11回

B：自己は愚かである。

語例：

愚く愚かな>：愚夫、愚兄、愚弟、愚计、愚策、愚意、愚见、愚诚、愚忱、愚怀、愚衷、愚志…

痴く愚かに>：痴长…

例文：

- (1) 依学生愚见、还该谨慎保重。『金』第55回
- (2) 愚侄不幸幼失严亲、早岁慈母见背。『玉』第14回
- (3) 老拙今年痴长81岁。『金』第61回

3.1.8. 賑やかさのメタファー

A：他者は賑やかである。

語例：

盛く盛んな>：盛价、盛从、盛使、盛席、盛筵、盛设、盛仪、盛情、盛意…

隆く賑やかな>：隆名、隆仪…

例文：

- (1) 老翁差盛使持轴、送到学生那边。『金』第77回
- (2) 我若不去、岂非辜负盛情。『蜃』第15回
- (3) 远劳驾从、又损隆仪。『金』第55回

B：自己は寂しい。

語例：

荒く寂しい>：荒州、荒村、荒斎、荒函…

例文：

(1) 请二位表兄到荒斎一叙。『儒』第45回

3.1.9. 清らかさのメタファー

A：他者は清らかである。

語例：

清く清らかな>：清願、清悔、清教、清察、清鑑、清賞、清照、清听、清名、清恙…

例文：

(1) 久聞清名。『古』第36回

(2) 吾亦得听清悔矣。『三』第37回

(3) 今日幸蒙清願、蓬荜生光。『金』第49回

B：自己は濁っている。

語例：

浊く濁る>：愚浊…

例文：

(1) 但弟子愚浊、不能洞悉明白。『紅』第1回

3.1.10. 豊かさのメタファー

A：他者は豊かである。

語例：

丰く豊かな>：丰标、丰采、丰度、丰范、丰仪…

例文：

(1) 今得瞻二位老爷丰采。『儒』第10回

B：自己は貧しい。

語例：

貧く貧しい>：貧道、貧尼、貧僧、貧家… 穷く貧しい>：穷官、穷内相、穷心、穷乡…

例文：

(1) 贫僧认不得路、走错了。『儒』第35回

(2) 等贫尼商量停当了、却来奉请。『天』第5回

(3) 虽然二爹不稀罕、也尽小的一点穷心罢了。『金』第72回

3.1.11. 明るさのメタファー

A：他者は明るい。

語例：

明く明るい>：明鑑、明裁、明断、明悔、明教、明示、明问、明见、明公…

照く照らす>：清照… 輝く輝く>：生辉、光辉… 光 (3.2.1 参照)

例文：

- (1) 伏望吾兄明教我。「天」第18回
- (2) 后成一绝、以奉清照。「西」第5回
- (3) 那时定当叩请文轩、光辉蓬荜。「蜃」第2回

B：自己は暗い。

(例証未発見)

明るさのBメタファーの表現例は発見されていないが、その意味はAメタファーの例証に含意されることがある。例えば相手がお越しくださることを自分の家を“光辉(照らす)”と表現しているが、そこに相手が輝くと同時に相対的に自分側が暗いという意味が含意されている。AとBのメタファーは相対的で、互いにもう一方を含意している関係は他の敬辞メタファーにも通じる。

3.1.12. 芳ばしさのメタファー

A：他者は芳ばしい。

語例：

芳<芳ばしい>：芳辰、芳诞、芳龄、芳名、芳闺、芳函、芳容、芳姿、芳仪、芳邻、芳誉…
香<香ばしい>：香闺…

例文：

- (1) 原来今儿也是姐姐的芳诞。「红」第62回
- (2) 因仰慕芳姿、无由致意。「蜃」第6回
- (3) 小生轻造香闺。「随」第80回

B：自己は臭い。

(例証未発見)

3.1.13. 量のメタファー

A：他者は多い。

(例証未発見。このメタファーは“豊かさのメタファー”Aと意味的に重なっている)

B：自己は少ない。

語例：

微<微かな>：微臣、微贱、微职、微躯、微疾、微疴、微恙、微忱、微诚、微意、微赆、微敬、微物、微仪…

寸<少しの>：寸心、寸函…

略<少し>：略表…

例文：

- (1) 微物不堪、略表今日之意。「红」第28回
- (2) 老夫日来因染微恙闭门不出。「三」第9回
- (3) 锦袍一领、略表寸心。「三」第27回

3.1.14. 暑さのメタファー

A：他者は暑い。

(例証見発見)

B：自己は寒い。

語例：

寒く寒い>：寒家、寒庐、寒舍、寒斋、寒门、寒荆、寒族…

例文：

(1) 我去向寒家这些人説。『儒』第47回

(2) 我家也住襄阳府、只有寒荆幼子身。『天』第1回

この暑さのメタファーは謙辞にしか利用されていない。“寒”ということばは字義的には“さむい”という温度感覚を表すものだが、ここでは、単なる気温のことを指すだけではない。冬に着る物も充分になく、部屋に防寒の設備も整っていないという“豊かさのメタファー” B も深く関与している。

3.2. 事物概念のメタファー

敬辞メタファーに利用された事物概念は実にさまざまである。一見何の関連性もない様々な現象は、2で指摘したようにそれぞれ性状概念を媒介として陰か陽のカテゴリーに帰属し、陰陽の概念ネットワークによって互いに関連付けられている。事物概念のうち自然現象、動物、植物の概念に関して、媒介となる性状概念がそれぞれ異なり、それらをまとめる一般的な用語がないので、以下まとめて“陽の自然現象、動物、植物”、“陰の自然現象、動物、植物”によって記述する。

3.2.1. 自然現象のメタファー

A：他者は陽の自然現象である。

陽の自然現象とは、性状概念の大きさ、高さや強さなどの尺度におけるプラスの価値に関係付けられる自然現象である。

語例：

天く天の>：天恩、天心、天威、天慈…

電く稲妻の>：电察…

海く海の>：海涵、海量…

洪く洪水の>：洪福…

台く台星の>：(前置) 台愛、台候、台驾、台鉴、台览、台阅、台谕、台诲、台教、台光、台顔、台号、台甫、台翰、台兄、台意、(後置) 父台、亲台…

光く光(の)>：候光、赏光、赐光、借光、光顾、光降、光临、光仪…

泰山…

北斗く北極星…

台は、上台、中台、下台の三つの星から構成された星座のことを意味する。古代中国では、三台は天界を支配する神、権力の象徴として崇められていた。

例文：

(1) 兄翁海量、或不深罪。『玉』第14回

(2) 向蒙老爹天心、超生小人兄弟、感恩不浅。『金』第77回

(3) 谬荐进于老恩台泰山北斗之下、仰企俯思。『玉』第11回

(4) 只求电察、便见真情。『世』第6回

(5) 全赖爷爷洪福。『金』第55回

(6) 请正台顔、容晚生仰测一二。『玉』第2回

(7) 若得大人光宠、晚生就此代舍亲叩谢。「蜃」第18回

B: 自己は陰の自然現象である。

陰の自然現象とは、性状概念の大きさ、高さや強さなどの尺度におけるマイナス価値に関係付けられる現象である。

語例:

水: 水酒…

例文:

(1) 寒天聊具一杯水酒、表意而已。「金」第69回

“水” そのものは自然現象であるが、ここで敬辞として使われる場合、そこに含意される酒としての“水っぽさ、まずさ、価値のなさ”がその動機づけになる。

3.2.2. 動物のメタファー

A: 他者は陽の動物である。

語例:

麒麟<麒麟の>: 麒麟儿、麟儿…

龙<龍(の)>: 登龙、乘龙、龙体、龙颜、龙位、龙驹、龙驾…

虎<虎の>: 虎驾、虎威…

凤凰<鳳凰の>: 凤体、凤驾…

骥<駿馬の>: 骥足…

千里驹<駿馬>…

鹤<鶴の>: 鹤驾…

鸿<鴻の>: 鸿篇、鸿回、鸿略…

例文:

(1) 叔叔有此麟儿、真可羨也。「白」第13回

(2) 请老爹龙驾到公馆略坐一坐。「儒」第1回

(3) 恕我等未远迎虎驾、多多有罪。「三侠」第8回

(4) 娘娘暂屈凤体、穿一品服色。「三侠」第17回

(5) 此处岂能淹留骥足。「世」第1回

(6) 老先生有此千里驹、弟辈亦增光多矣。「玉」第2回

(7) 百日之外、专望鹤驾降临。「水」第42回

(8) 兹绿鸿便、草草不宣。「玉」第19回

B: 自己は陰の動物である。

語例:

蜗<蝸牛の>: 蜗居…

犬<犬の>: 犬子、犬妇…

狗<犬の>: 狗命…

豚犬<豚と犬>: …

犬马<犬と馬>: …

例文:

(1) 小弟已于花田觅一蜗居。「蜃」第20回

(2) 大老爷天恩、留小的一条狗命。「儒」第22回

(3) 犬妇之丧、累蒙郡驾下临、蔭生辈何以克当。「红」第14回

(4) 学生生豚犬、不足为贺。「金」第31回

(5) 喜滋地犬马之报。「三」第8回

3.2.3. 植物のメタファー

A：他者は陽の植物である。

語例：

芝〈靈芝の〉：芝范、芝暉、芝光、芝眉、芝字、芝顔…

椿〈椿樹の〉：椿庭…

萱〈わすれぐさ〉：椿萱…

“芝”は万病に効く薬として、“椿”は千年も生きられる伝説上の巨樹として、“萱”は憂いを忘れさせる神秘的な草として伝えられ、いずれもある種の神通力を有する植物とされている。

例文：

(1) 今日弟幸会芝范。「紅」第115回

(2) 椿萱定然并茂。「玉」第2回

B：自己は陰の植物である。

語例：

草〈草の〉：草号、草字、草名、草舍、草榻、草寨、草酌…

刖〈草の〉：刖言、刖议、刖尧、刖献… 荆〈いばらの〉：荆人、荆妇、荆妻…

茅〈かやの〉：茅舍、茅斋、茅塞…

芹〈せりの〉：芹敬、芹献、芹意…

芜〈雑草の〉：芜词、芜鍼、芜箋…

蒲柳〈川柳〉…

葑菲〈かぶら〉…

葛藟〈つる性の草〉…

蓬蒿〈よもぎといばら〉…

例文：

(1) 草字叫做玉圃。「儒」第22回

(2) 今日惠顾茅斋。「儒」第46回

(3) 今既采及葑菲、敢不敬献刖尧。「岐」第63回

(4) 足下深心虑到、开我茅塞。「驻」第16回

(5) 昨蒙大爷枉驾、蓬蒿生辉。「蜃」第14回

(6) 门生终身皆顶戴老师高厚栽培。「儒」第22回

例(6)では植物の名称そのものは使われていないが、自分のことを植物に見立て、他者が自分に教えることを“栽培”という尊辞を使って表現している。この表現の裏には、自分は相手による丹念な栽培がなければ、材にならないような価値のない植物であるという概念的メタファーが機能している。

3.2.4. 建築物のメタファー

A：他者はりっぱな建物である。

このメタファーには、“尊堂(①お宅、②お父さん)”の使い方に見られるように、他者の住まいを表現する場合だけではなく、他者に関係する建物以外の意味として使われることもある。

語例：

殿〈宮殿〉：殿下、殿元、殿元公…

宮〈宮殿〉：上宮、貴宮…

閣〈楼閣〉：閣下、閣正…

府〈邸宅〉：貴府、府干…

堂〈邸宅〉：尊堂、堂翁…

例文：

- (1) 殿元两日在于何处。『随』第 80 回
- (2) 欲送他来贵宫作一徒弟。『金』第 93 回
- (3) 闻得阁下与琴言订交最密。『品』第 52 回
- (4) 捷报贵府老爷王。『蜃』第 15 回
- (5) 你尊堂家下大小事故、一切都在我老汉身上替你扶持便了。『儒』第 1 回

B：自己は粗末な建物である。

語例：

家〈家〉：家奴、家下、寒家、贫家、家君、家父、家母、家叔、家兄、家姐、家嫂…

室〈部屋〉：拙室…

房〈部屋〉：房下…

舍〈あばらや〉：舍下、寒舍、舍亲、舍舅、舍弟、舍妹…

例文：

- (1) 娘子怎的这两日不过贫家吃茶。『金』第 3 回
- (2) 家叔此刻恰好在舍。『儒』第 46 回
- (3) 房下刚才已是说了。『金』第 13 回
- (4) 拙室服了良剂、已觉好些。『金』第 58 回

家はマイナスの意味を持たない中性の概念としても使われるが、建築物に関する“殿、宮、閣、府、堂、家、舍”などの概念系列の中では相対的に粗末な建物というマイナスの意味を持っている。謙辞として使われる場合はそのマイナスの意味が利用されたと考えられる。

3.2.5. 生活用品のメタファー

A：他者は貴重な物である。

語例：

金〈金〉：千金、金体、金口、金诺、金玉、金安、金奖…

玉〈玉〉：玉人、昆玉、玉体、玉颜、玉貌、玉容、玉趾、玉步…

瑶〈美しい玉〉：瑶回、瑶函、瑶翰、瑶缄、瑶札、瑶音…

琅〈美しい玉〉：琅函…

珠〈真珠〉：珠玉…

锦〈錦〉：锦心、锦覆、锦字…

宝〈宝物〉：宝位、宝眷、宝店、宝船…

例文：

- (1) 奶奶也要保重金体才是。『红』第 15 回
- (2) 小娘子高论、自是金玉、敢不谨从。『玉』第 10 回
- (3) 去秋忽报瑶回华札。『金』第 48 回
- (4) 三兄不可因小弟打断诗兴头、请倾珠玉。『玉』第 10 回
- (5) 因想佳人玉貌、本当配合得其人、况投来锦字、可见有心。『驻』第 2 回
- (6) 这里不是说话处、宝船在那里。『儒』第 22 回

B：自己はありふれた物である。

語例：

箕帚〈掃除道具〉…

巾栉〈洗面道具〉…

砖〈れんが〉…

例文：

(1) 贤侄尚不弃嫌、情愿奉侍箕帚。『醒』第20回

(2) 愚姐愿侍巾栉矣。『驻』第11回

(3) 我原不过抛砖、霞妹何必过贬。『蜃』第16回

3.3. 人間関係概念のメタファー

3.3.1. 社会関係のメタファー

社会関係の中には、職業上、宗教上、そして学校における上下関係などが含まれているが、ここでは“社会的上位者、下位者”という概念でまとめて示す。これらの表現が敬辞として使われる場合、事実話し手と相手がそのような関係でなくてもそうであるようにメタファー的に表現することができる。

A：他者は社会的上位者である。

語例：

官〈官僚〉：长官、大官、大官人…

仙〈仙人〉：仙长、神仙、仙人…

师〈先生〉：老师、恩师…

先生〈先生〉：大先生…

例文：

(1) 我家中还有一匹黄马、送与长官罢。『金』第38回

(2) 动问神仙、高名雅号。『金』第29回

(3) 拜问老先生尊姓。『儒』第22回

B：自己は社会的下位者である。

語例：

奴〈女の召し使い〉…

仆〈男の召し使い〉…

学生〈学生〉…

晚生〈後輩〉…

小生〈小生〉…

武职・武官〈武官〉…

卑职・卑官〈卑しい官職〉…

例文：

(1) 娘们肯下降、奴已定奉请。『金』第14回

(2) 既蒙明公高谊、仆不敢固辞。『古』第8回

(3) 待晚生观一观气色何如。『玉』第2回

(4) 在下卑官武职、何得号称。『金』第36回

(5) 卑职也不大晓得。『蜃』第16回

3.3.2. 親族関係のメタファー

ここで敬辞の語例として上げているのは、すべて親族名称の本来の使い方ではなく、親族関係にない人に対して親族名称をメタファー的に借用する現象である。

A：他者は親族関係の上位者である。

語例：

爷〈祖父〉：爷爷、老爷…

父〈父〉：父台…

伯〈伯父〉：老伯、尊伯…

姐〈姊〉：贤姐、大姐…

哥〈兄〉：哥哥、大哥…

例文：

(1) 小弟有一事相求、不知哥哥照顾么。『金』第55回

(2) 小的也记不多几个曲子、胡乱席上答应爹每罢了。『金』第35回

(3) 孩儿没甚孝顺爷爷。『金』第55回

B:自己は親族関係の下位者である。

語例：

弟〈弟〉：弟、小弟、愚弟…

孩儿〈息子〉…

媳妇〈嫁〉：小媳妇…

例文：

(1) 妹子量浅、小杯奉陪罢。『釵』第8回

(2) 先生高见、小弟茅塞顿开。『釵』第2回

(3) 小媳妇实指望伏侍娘到头。『金』第62回

爹〈父〉：爹、老爹…

娘〈母〉：娘、大娘…

叔〈叔父〉：尊叔…

兄〈兄〉：贤兄、大兄…

嫂〈兄嫁〉：大嫂…

妹〈妹〉：妹、妹子、小妹、愚妹…

侄〈おい〉…

親族関係でない自己と他者のことを親族関係概念を通して表現する場合、基本的に自己と他者との年齢関係や社会的身分関係を基準にして選択される。場合により、社会的身分関係が優先し、身分の低い年長者が身分の高い年少者に対して上位の親族名称を使って呼称することもある。例(3)では地方豪族西門慶が政府高官の蔡太師に対して、自分の事を“孩儿くむすこ”，相手を“爷爷くおじいさま”と呼んでいる。ここでは明かに年齢より社会的身分差が呼称選択の基準になっている。(親族呼称に関しては神田1987の研究がある)

3.4. 心身作用概念のメタファー

3.4.1. 心理状態のメタファー

A:他者は自己に寛大である。

語例：

慈〈優しい〉：慈颜、慈母、慈旨…

枉〈まげて〉：枉访、枉顾、枉驾、枉临…

例文：

(1) 今日得识慈颜、平生甚幸。『水』第58回

(2) 若不弃嫌、何不屈驾这边一叙。『三侠』第29回

(3) 前日枉顾、有失迎迓。『儒』第34回

(4) 些须微意、不成礼数、万望笑纳。『金』第17回

屈〈まげて〉：屈顾、屈驾、屈留…

笑〈笑って〉：笑纳、笑留、笑收…

笑うことは一種の身体的動作、行為としても捉えられるが、ここでは相手を“自分のつまらない贈り物を気にせず寛大に笑って収めて下さる”という意味で使われているので、

単なる笑うという行為ではなく、その背後の寛大な気持ちがメタファーの媒介概念として利用されている。

B:自己は他者を敬っている。

語例：

恭く恭しく>：恭呈、恭候、恭送、恭謁、恭听…

敬く敬って>：敬探、敬問、敬備、敬来、敬奔、敬烦、敬奉、敬仰…

謹く謹んで>：谨拜、谨叩、谨书、谨表、谨领、谨谢…

肃く恭しく>：肃候…

例文：

(1) 淌蒙賜顧、乞先示知、以便扫門恭候。『好』第14回

(2) 有何台諭、自当恭听。『玉』第18回

(3) 我有桩事、敬来和你老人家说来。『金』第88回

(4) 学生谨领、就封过来。『金』第75回

(5) 肃候近安。『驻』第3回

3.4.2. 身体動作のメタファー

身体動作のメタファーは自己側の謙辞にしか適用例が発見されていない。このような表現は相手に対して実際身体的な動作をしていなくても下位者が上位者に対して礼儀的な行動をしているようにメタファー的に表現するものである。謙辞メタファーの媒体となる動作概念に、両手を合わせて肩の前方に上げる動作“拱”，姿勢を低くして拝む動作“拜”，ひざまずいて両手を地面につける動作“伏”，ひざまずいて頭を地面にたたきつける動作“叩、顿首”，などが使われている。いずれも社交上，上位者の相手に対して取るべき礼行為である。実際そうしていなくてもそうしているようにメタファー的に表現することは言語行動において礼を守ることにつながる。

A:他者は上位者としての振る舞いをする。

(例証未発見)

B:自己は下位者としての振る舞いをする。

語例：

拱く拱をして>：拱候、拱听…

拜く拜んで>：拜望、拜会、拜见、拜謁、拜贺、拜纳、拜领、拜求、拜恳、拜问、拜辞…

伏く伏せて>：伏乞、伏求、伏望、伏愿、伏侍、伏事、伏候、伏闻…

叩くお辞儀して>：叩谢、叩贺、叩辞… 顿首くお辞儀する>：…

例文：

(1) 在家拱候相公。『玉』第20回

(2) 自拜别姑丈大人、屈指已十二载。『儒』第8回

(3) 伏候主裁。『蜃』第21回

(4) 小的而今叩辞了太老爷回南京去。『儒』第26回

(5) 征西大都督、太傅臣司马、诚惶诚恐、顿首谨表。『三』第107回

4. まとめ

近代中国語の敬辞体系は、2項対立構造をなす一連のメタファー群によって構成されている。このようなメタファーによる敬語システムは、世界の敬語の中でこれまで記述された日本語、韓国語、ジャワ語などに見られるような社会的ダイクシス（直示）として記号化された敬語体系や、英語などヨーロッパの諸言語に見られるような発話行為の調節によるポライトネス体系とはかなり性質の異なるものである。これまで記述されたことのないこのようなタイプの敬語体系の発見は、これからの敬語の対照研究や普遍理論の研究に対して、一つの新しい敬語モデルを提供したことになる。敬語類型論的考察について詳しくは井出、彭1996、彭1997を参照されたい。そして今回は静的、体系論的な立場から記述を行ったが、敬辞にはもう一つの重要な側面、その使用コンテキストに関する動的な、運用的な側面がある。それについては彭1995a、1996aにおいて議論されている。さらに敬辞の通時的变化に関する実証研究は彭1996bにおいて行われている。

用例出典：

略名	書名	著者・編者	底本	年代	新版	新版年
「西」：「西厢记」	王实甫	崇祯 13 年刻本	13 世纪（元）	山东文芸	1987	
「三」：「三国演义」	罗贯中	大魁堂藏板刻本	14 世纪（元）	齐鲁书社	1991	
「水」：「水浒传」	施耐庵	贯华堂刻本	16 世纪（明）	上海古籍	1991	
「古」：「古今小说」	冯梦龙	天许斋本	17 世纪（明）	上海古籍	1992	
「醒」：「醒世恒言」	冯梦龙	叶敬池刻本	17 世纪（明）	上海古籍	1992	
「金」：「金瓶梅词话」	兰陵笑笑生	万历丁巳版	17 世纪（明）	星海文化	1987	
「玉」：「玉娇梨」	夷荻散人	本衙藏版	17 世纪（明）	春风文艺	1981	
「好」：「好逑传」	名教中人	萃芳楼藏版	17 世纪（明）	广东人民	1980	
「世」：「世无匹」	古吴、娥川主人		18 世纪（清）	春风文艺	1983	
「驻」：「驻春园」	吴航野客	三除堂巾箱本	18 世纪（清）	春风文艺	1985	
「儒」：「儒林外史」	吴敬梓	嘉庆丙子版	18 世纪（清）	上海古籍	1991	
「红」：「红楼梦」	曹雪芹、高鹗	庚辰本、程甲本	18 世纪（清）	人民文学	1992	
「蜃」：「蜃楼志」	禺山老人	嘉庆 12 年刻本	18 世纪（清）	齐鲁书社	1988	
「白」：「白圭志」	博陵、崔象川	江左书林刻巾箱本	19 世纪（清）	春风文艺	1985	
「品」：「品花宝鉴」	陈森	道光初刻本	19 世纪（清）	上海古籍	1994	
「天」：「天雨花」	陶贞怀	渍音斋刻本	19 世纪（清）	中州古籍	1984	

次の用例出典は参考文献 陈海烈、徐英 1989の引用によるものである。

- 「三侠」：「三侠五义」 石玉崑（清）
- 「岐」：「岐路灯」 李缘园（清）
- 「随」：「随唐演义」 褚人获（清）

参考文献

Brown, P. and Levinson, S. (1987)『Politeness: Some Universals in Language Usage.』Cambridge University Press.

- Chao, Yuen Ren 1976 『Aspects of Chinese Sociolinguistics』 Stanford University Press
- 陈海烈、徐英 1989 『礼貌词语词典』 广州文化出版社
- Gu, Yueguo. 1990 「Politeness phenomena in modern Chinese」 『Journal of Pragmatics 14』 p237-257
- 井出祥子、彭国躍 1996 「Linguistic Politeness in Chinese, Japanese and English----from a Socio-Historical Perspective」 『言語学林 1995-1996』 三省堂
- 神田千冬 1987 「『红楼梦』における親族呼称と身分呼称（上）」 『中国語研究』 第 27 号 白帝社
- 神田千冬 1987 「『红楼梦』における親族呼称と身分呼称（下）」 『中国語研究』 第 28 号 白帝社
- Lakoff, George 1987 『Women, Fire, and Dangerous Things』 The University of Chicago (和訳『認知意味論』池上嘉彦, 河上誓作他訳 1993 紀伊国屋書店)
- Leech, Geoffrey. N 1983 『Principles of Pragmatics』 Longman Group Limited (和訳『語用論』池上嘉彦, 河上誓作訳 1987 紀伊国屋書店)
- 彭国躍 1993 「近代中国語の敬語の語用論的考察」 『言語研究』 (第 103 号) 日本言語学会 p117-183
- 彭国躍 1995a 「近代中国語敬語体系の理論的枠組 ---- 陰陽世界観に基づく対人関係の認知システム」 『富山大学人文学部紀要』 (第 23 号) 富山大学 p133-166
- 彭国躍 1995b 「メタファー類似性問題の一考察 ---- 類似説と創造説の隙間」 『日本学報』 (第 14 号) 大阪大学 p143-158
- 彭国躍 1995c 「『金瓶梅詞話』の年齢質問発話行為と敬語表現 ---- 社会言語学的アプローチ」 『言語研究』 (第 108 号) 日本言語学会 p24-45
- 彭国躍 1995d 「近代中国語の敬辞とその被修飾成分との共起関係 ---- 親族名称を中心に」 『中国語学』 (242 号) 日本中国語学会 p104-114
- 彭国躍 1996a 「近代中国語敬辞の文脈条件の一考察」 『富山大学人文学部紀要』 (第 24 号) 富山大学 p155-169
- 彭国躍 1996b 「中国語敬辞体系の衰退プロセス ---- 言語と社会の通時的共振性」 『第 5 回社会言語学研究会予稿集』
- 彭国躍 1997 「敬語の類型論的対照研究 ---- 日本語, 英語, 中国語を基本モデルとする」 『富山大学人文学部紀要』 (第 26 号) 富山大学 p369-382
- 太田辰夫 1972 「中国語における敬語問題」 『言語生活』 6 月号 p44-49
- 藤堂明保 1974 「中国語の敬語」 『敬語講座第 8 巻 世界の敬語』 明治書院 p139-162
- (金沢学院大学)